第8回 航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会 議事概要

日時：令和6年11月14日（木） 14:00~16:00

場所：中央合同庁舎3号館7階 A会議室

出席者：

（委員（行政以外））

大塚委員、吉田委員、杉原委員、畑辺委員、松尾委員、李家委員

（行政）

航空局 北澤安全部長、梅澤安全政策課長、木内参事官（航空安全推進）、
藤林乗員政策室長、藏安全政策企画官

事務局からの資料説明後、意見交換を行った。委員からの主な意見等は以下のとおり。

（1）整備士関係

- 整備士人材確保は喫緊の課題であり、安全性の担保に配慮しつつ、全般的にできるだけ早期に実現できるよう調整いただきたい。
- 航空運航整備士の業務範囲拡大に伴う教育時間の増加について、学生への負担を考慮し、安全性の担保を前提にしつつ、引き続きできる限り教育時間の削減等を検討いただきたい。
- リモート技術の活用については安全の担保が一番大切であり、実機検証については、検証目的を明確化したうえで有効に進めていただきたい。あらゆる項目について網羅的に検討するのは時間を要するため、例えば効果的な活用が見込まれる場面や、保守など安全上のハードルが高くない場面から導入して、少しずつ範囲を拡大していくような方法も含めて、検討を進めていただきたい。
- 本年度の航空専門学校の入学者数は昨年度と同規模に留まっており、養成規模の回復のため、重点テーマ5の戦略的な広報について大変期待している。親世代に対しても今回の制度改正によるメリットを含めてキャリアプランが見えるような広報ができると良いのではないかと。
- 今回の制度改正は日本が世界をリードする部分があり、ランプインスペクションなどを想定すると、制度導入に当たっては、海外のエアライン等に対しても適宜事前の周知をお願いしたい。
- 重点事項ではないが、中間取りまとめにある実地試験項目からエンジン試運転項目を削除する件についても、引き続き検討を進めていただきたい。

(2) 操縦士関係

- 航空大学校について、
 - 施設の老朽化について、女性活躍の観点のみならず、男子学生含めた学生からの魅力度の向上という意味で環境改善が必要ではないか。
 - 現在活用している空域・空港以外も活用するなど、目下の課題である訓練生の滞留・訓練期間の適正化についてもご検討いただきたい。
 - また、中間取りまとめにある回転翼航空機の養成課程や地域航空会社の採用関係についても、引き続きご検討いただきたい。
- 外国人操縦士の受入の円滑化について、手続き期間が相当短縮される見込みであるが、局内での決裁の期間をさらに縮めて数日とできるようご検討いただきたい。また、英語能力証明についてももう少し改善の余地があるとの意見が事業者から上がっているため、検討いただきたい。
- 女性活躍推進について、女性の志望者の拡大は非常に重要。女性は出産・育児によって復帰訓練等に時間を要し、機長昇格までに時間がかかる点についての留意も必要ではないか。
- シニア人材の活用について、現行の要件等を丁寧に整理した上で、欧米等の動向も参考に適切に検討が進められているものと理解。

以上